

第1回奈良市の地域教育を考える委員会会議録

平成24年7月24日 会議

地域教育課

平成24年度 第1回 奈良市の地域教育を考える委員会 会議録	
開催日時	平成24年7月24日(火) 10時00分～12時00分
開催場所	奈良市庁舎 第16会議室
内 容	<p>○ 開 会</p> <p>1 委嘱式</p> <p>2 教育長あいさつ</p> <p>3 自己紹介</p> <p>4 会長・副会長の選出</p> <p>5 議事</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 奈良市の取組について <p>6 その他</p> <p>○ 閉会</p>
出席者(委員)	岡田龍樹委員 竹村健委員 畑中康宣委員 新免照代委員 中西拓也委員 北田和美委員 藤田正博委員 虎杖徳明委員 魚谷和良委員 月出(佐野)万里子委員
(担当部局)	中室教育長 福岡教育総務部長 北学校教育部長 寺田子ども未来部長
(事務局)	西崎教育総務部次長 田町教育総務部参事 林地域教育課長(事務局長) 椿井教育支援課課長補佐(松本課長代理) 石原子ども未来部参事 中川子ども政策課課長補佐(山岡課長代理) 山下子ども育成課長 地域教育課から9名
開催形態	公開
担当課	地域教育課

議 事 お よ び 協 議 内 容

○ 開会

1 委嘱式（教育長より手渡し）

2 教育長あいさつ

本日は、委員の皆様におかれましては、お忙しい中、奈良市の地域教育を考える委員会の委員をお引き受けいただきまして誠にありがとうございます。日頃から皆様には、奈良市の教育行政にご理解とご協力をいただいておりますことに対して心から厚くお礼申し上げます。

本市では、「地域全体で子どもを守り育てる体制づくり」を教育ビジョンの一つの柱に据え、学校・家庭・地域が連携・協働した取組といたしまして、「地域で決める学校予算」と「放課後子ども教室」の事業を展開しているところです。

「地域で決める学校予算事業」は、平成22年度より実施し、今年度で3年目になります。これまでの取組を通して、学校と家庭・地域の連携や交流・絆が深まるとともに、地域教育協議会を中心に、中学校区を単位とする取組が充実してきたと感じています。

さらに、コーディネーターの登録も、昨年度の256名から今年度は298名と年々増加し、学校と地域をつなぐ役割とともに、学校への支援活動も広がりを見せてきているように思います。

また、「放課後子ども教室」も今年度より、全ての小学校において実施することといたしました。これにより、小学校における子どもたちの安全・安心で、健やかに生活できる場所が確保され、地域の方々の参画のもと、学習、交流、体験の機会がますます増えることにつながると考えております。

これからも、学校・家庭・地域がお互いの役割や機能を十分に理解し、連携・協働した仕組みづくりをつくるとともに、地域の人材や環境を活かした、特色ある教育活動を展開するとともに、地域の教育力の再生と地域コミュニティの活性化を図っていきたいと考えております。

本日の委員会では、委員の皆様には奈良市地域教育推進事業を円滑に推進していくために、様々な立場から忌憚のないご意見をいただければと思います。今後とも、本市の事業にご協力を賜りますようお願いいたしまして、挨拶とさせていただきます。

3 委員自己紹介 および 担当部局・事務局紹介

4 会長・副会長の選出 ※会長には岡田委員が、副会長には月出(佐野)委員が選出される。

○会長あいさつ

ただいま会長に推挙いただいた岡田です。この委員会に関わり4年目になりますが、奈良市の地域教育も随分活発になってきたという印象をもっている。そのあたりもアンケート報告に表れているようだ。学校支援地域本部事業の国の委託が終わるとともに、全国的には13%が取りやめとなっている。奈良市では、地域で決める学校予算事業をつけていただき、全中学校区で継続して実施されている。しかし、この予算も未来永劫に続くわけではないので、今のうちに、地域・学校が連携して着実に動いていける体制づくりを進めていきたい。ご協

力よろしく申し上げます。

○副会長あいさつ

ご紹介いただきましたように、奈良市地域学校連携推進委員会の時から委員を務めさせていただきます。うまく役割を果たせていないので恐縮しております。中学校区に一つずつある公民館ですので、より有効に機能するよう尽力していきたいと考えています。よろしく申し上げます。

5 議事

- ・ 奈良市の取組について

岡田会長 本委員会は、運営要領により公開とさせていただきます。本日の会議の傍聴希望はございましたか。

事務局 傍聴希望はございませんでした。

岡田会長 また、会議録を作成するため、録音と写真撮影を行いますことをご了承ください。本日の会議録の署名は、名簿の上から順番で、竹村委員と畑中委員にお願いします。では、議事に入らせていただきます。開催要項の（５）奈良市の取組についての説明を事務局よりお願いします。

事務局 （資料確認ののち資料を使って事務局説明。）本年度も本委員会は、年３回の開催を予定している。

岡田会長 本委員会の設立の意義から、前年度・今年度の取組の現状、３月のアンケート調査で課題が浮き彫りになったことなどを説明いただきました。本年度は、５つのテーマで検討をお願いしたいとの提起でした。まず、アンケートを含めて、ご質問やさらに詳しく聞きたいところ等がありますか。アンケートも今日配布されたものなので、すぐに質問は難しくかもしれません。本委員会が進めている「地域で決める学校予算事業」「放課後子ども教室推進事業」の運営に関わることでも結構です。

虎杖委員 この委員会の設置の目的１～３があるが、１と２は理解できるのだが、３のサポートセンターの設置の内容が理解できない。

岡田会長 教育センターもでき、設置当初からコーディネーター（以下 CN）・ボランティアをうまく統合するものとしてのサポートセンター構想がある。昨年度も本委員会の課題になっていたが、十分に議論できず、具現化できなかったのが、去年に引き続き今年も課題にということだ。教育協議会ごとに組織は立ち上がったのだが、それらの取組を統合し、相互に情報交換し、全市的に展開していく組織をとということだ。例えば、放課後子ども教室でも校区の枠を超えてお手伝いしたいという意向があるときに、どこに行けばいいのか等連絡したり、ブローカリング（仲介）をしていく部署があればうまく循環するのではないかとということで、目的の一つにあげられている。

虎杖委員 現在設置されているのか。

岡田会長 設置されていない。設置に向けての検討をするということだ。

佐野委員 地域教育協議会に総合 CN と地域 CN、運営委員会に代表 CN と地域 CN というふうに分けられたということだが、それぞれの CN の役割の違いは。

虎杖委員 例えば都南中校区であれば、学習支援、合同行事、安全管理等々それぞれ CN がいる

が、それらのまとめ役が総合 CN ということで、私になっている。連絡も学校→総合 CN →各 CN という形になる。

藤田委員 とりまとめが総合 CN という事だ。

虎杖委員 そうです。それぞれ協議会には、会長、副会長がおられますので。

事務局 従来 CN の役割が明確になっていなかったの、明確に位置付けた。総合 CN は CN のとりまとめであり、また、協議会長や行政側とのパイプ役になってもらう。協議会同士の横のつながりも作ってもらう。各校園の運営委員会にも代表 CN を設置し、代表 CN はすべて協議会に参加する。行政からの連絡も総合 CN、代表 CN を核にして行う。

岡田会長 総合 CN は、去年から設置した。

事務局 先日も、総合 CN と協議会長の合同会議を初めて開いた。

岡田会長 昨年度 2 月の交流の集いをどういう内容で持つかについても、総合 CN に集まっていたら協議してもらった。検討事項の方に話を移したい。個々にというより 5 つに関連してのご意見を伺いたい。1 に関しては、総合 CN、代表 CN が設置され整備されてきてはいるがどうか。2 に関しては、アンケート結果からも、地域の方の理解度を深める方法を考えていく必要がある。3 の教職員の理解は、当初から言われてきたことだ。当初は主に地域側からの意見であったが、地域側は地域の理解を、学校管理職からは教職員の理解を求めるといふように、自分たちの仲間の理解を訴えている。中堅教員の研修も計画されていると聞いている。4 は、校区内の連絡体制。5 は、サポートセンターともからんで、CN 同士の連携・ネットワークづくりの課題だ。

藤田委員 地域教育協議会というのは、地域の方には浸透していない。ボランティア登録は 100 名を超えるのだが、活動しているのはごく一部。CN と限られたボランティアの活動ではなかなか地域に浸透していかない。都跡では、昨年第 1 回のふれあい祭りを開催した。主催は地域教育協議会、共催を自治連合会にしたのだが、協議会てなんやねんという声があり、今年は主催を自治連合会にした。サポートセンターは市全体のこととして大きいことだと思うが、地域ではまず地域教育協議会を知ってもらうことが大きい。地域の住民との温度差をいかに縮めるかが課題だ。

岡田会長 登録したけれど声がかからないという声は当初からある。たくさんの方が関わればと考えるのだが、きちんと対応することが大事で、多ければいいというものでもない。運営に参画するのは少人数でよいが、地域に理解されていないというのは課題だ。PTA ではどうか。

畑中委員 ボランティア募集はあるが、地域教育協議会への関心は薄い。ボランティアさんや CN さんを見かけると、子どもは「先生」と声をかけ、寄って行っているが、保護者から見ると、「何の先生か」という感じで、せつかくの取組が保護者に見えにくい面はある。校長はホームページでの広報・紹介も検討している。それぞれの取組も単発的で、ネットワークも途切れがちだ。保護者への情報も浸透できるよう工夫していきたい。

岡田会長 取組の案内も地域教育協議会名で出すより、自治会名で出す方が、通りはいいかもしれない。自治会の立場からはどうか。

竹村委員 都南校区の場合はうまくいっているように思う。先生が中心のような感じがするので、もう少し地域が入り込んだ形にしていけないか。

虎杖委員 都南校区は5幼、5小、1中の大きな校区だが、当初から、地域教育協議会のボランティア募集チラシを、連合会に協力してもらい、全校区で回覧してもらっている。ボランティアの希望者は少なく、地域教育協議会の名称も十分に浸透していない。フェスタも実施し、地域の方の理解を図っている。何度も粘り強く広報していく必要がある。

竹村委員 だれがどう活動しているのか、もう少し整理しないとわかりにくい。「サクラネットワーク」も何をしているのかわかりにくい。

岡田会長 協議会によっては、愛称をもっている場合もある。

虎杖委員 都南校区では、地域教育協議会、運営委員会とややこしいので、今までの「サクラネットワーク」を通称名として活動し、知らせている。

岡田会長 それぞれの前史があって通称名で統一されているところもある。通称名を作っているところはどれくらいあるのか。

事務局 把握しておりません。

岡田会長 協議会名と通称名とどちらがいいのか。

事務局 名称は浸透するような形で作っていただければよい。活動を通じて、地域教育協議会という組織がどんな組織かを浸透させていくのが大切だ。

岡田会長 活動の中身を通して浸透させていくということですね。学校を支援することが中心だが、より多くの地域の方に参加していただき、知ってもらうことも大切です。先生方の理解はどうですか。

新免委員 中学校教員の理解は少ない。中学校の教員は部活動等で忙しく、新しいことに対しての不安感も多い。こんなことを助けてもらえるのではないかとということを明らかにしていくことから、各学校園のニーズを把握し、そのニーズに合った支援をしてもらう。そうすることによって先生方の理解が深まっていく。公民館は、豊富な人材を把握しておられるので、その仲立ちをCNにしてもらうようにすればいい。先日富雄とのCNの交流会を持ち、多くのことを学ばせていただき、CNも意欲的になった。近くのCN同士が交流することは大切である。中学校の課題は、多くの小学校がある場合、自治会もたくさんあり、また未組織の自治会もありといった状態なので、それらをいかにまとめるかが難しい。実は、本校区は去年まで中学校長が協議会長だった。ようやく、今年から地域側が会長となった。自治会同士の連携を強めるのも大きな課題である。

岡田会長 事業内容一覧で校区の取組が分かる。地域教育協議会が中心となって取りまとめているのだが、それぞれの協議会の内実は理解しにくい面がある。校区の各校園では取り組んでいても、まとめきれていない面もあるかもしれない。自治会同士のつながり、CN同士のつながりが大切だ。公民館の立場ではどうか。

佐野副会長 地域によってもばらつきがある。公民館もできるだけ地域教育協議会に入るようにと伝えている。勝手に入れないので、協議会側から声かけがあれば入るようにしている。その際、会長や会計などではなく一委員として参加している。活動に際しての具体的な相談には対応している。運営委員会に入っているところは少ないが、協議会には半数以上入っている。まず顔見知りになるところから始めている。共に事業を実施しているところもできつつある。そういった取り組みが少しずつ広がり、市内全体に広がっていけば、と考えている。

岡田会長 22協議会の半分ぐらいには、協議会全体会に参加しているということですね。

藤田委員 協議会で地域のこと等は説明するのだが、公民館側から年間行事等何をやっているかの説明は一切ない。又、有料であるし、減免申請も面倒なので、できるだけ公民館の使用を避けている。もう少し配慮してもらえないか。

佐野副会長 無料の時は親しみやすかったのですが、手続きが負担になり申し訳ありません。

福岡部長 それは有料、無料の話ではない。公民館は社会教育の拠点で、地域の中での活動をしていかなければならない。自治会が利用する場合は市当局との検討課題としていくべき課題だ。公民館は生涯学習財団に所属する、生涯学習・社会教育の専門家なので、地域の中に出ていき、地域の中に入ってもらいたいという願いがある。私は生涯学習財団の副理事長でもあるので、公民館が地域、学校にもっと入り込んでほしいと考えている。

岡田会長 地域教育協議会は減免対象になるので、使っていただける。

藤田委員 会長から減免申請しなければいけない不便さがある。同じ行政の施策なのに手続きが面倒だというのは疑問である。地域教育協議会によって抱える小学校の数が違うなど条件が違うので、お互いに学び合うためにCN同士の連絡会をやってもらうことは重要だ。アイデア等自分たちが考えるだけでは煮詰まってしまう。23年度はプレゼンテーションで一番の評価をもらったのだが、24年度はあまり評価されなかった。また励みにして頑張りたい。

岡田会長 地域をベースにして子どもを育てていくには、学校、公民館、市長部局所管の機関、NPO、民間企業等々いろいろな関わりがある。これらを連携していくためには、行政もネットワーク型行政にしていく必要があるし、いろんな資源をうまく連携統合していく核に地域教育協議会があればという願いもある。現状はその都度手続きが必要な面はあるが、連携のため頑張っていたきたい。一方公民館も地域向けに一層アピールしていただければと考える。

中西委員 知名度を高めたり、意識改革を進めたりするには、ある程度時間がかかる。本事業の先行きがどうなるか気になる。地域・学校・家庭の連携強化は、誰しもその重要性を認めることなので、粘り強く取り組む必要がある。本校でも、3回の運営委員会の中に教職員が参加して、教職員と共にシンポジウムを行うという工夫をしている。この間、協議会・運営委員会という名称を含めて、目まぐるしく変わった。その結果「夢・教育プラン」という名称が飛んでしまった。2年間の間に「夢・教育プラン」という名称が浸透しつつあったのに残念だ。名前一つでも、変化するたびに理解が遅れてしまう。本校では、放課後子ども教室は5年間継続しており、毎週水曜日に実施されており、すっかり定着している。

岡田会長 放課後子ども教室も、地域教育協議会に内包されるが、放課後子ども教室に携わる地域住民には理解されているか。

中西委員 放課後子ども教室はCNのまとまりもあり、学校との連携もうまくいっている。それが運営委員会の一部となり、さらに若草校区地域教育協議会へといくので、協議会については、名前を知っている程度である。

岡田会長 商工関係（奈良市中心市街地活性化研究会）という離れた立場から、みられてどうか。

魚谷委員 地域住民として直接教育に関わっていない立場からは、地域教育協議会はわかりにくい。椿井校区では今年初めて「椿井まつり」を実施した。三笠校区では大宮まつりが昔

から実施されているが、地域の人に情報発信をしながら、囲い込むというか、つながりを作り、地域の協力を得、ボランティア・CNの育成をしていく。名前も大切だが、地道な取組が大切である。

北田委員 幼稚園は職員の人数が少なく、また本校区は小中一貫校なので、教育協議会にも幼小中が集まり、取組がしやすい。私はその内容を職員に伝えている。また、CNが何か必要なことはないかと聞いてくれるので、教職員で話し合い、園側のニーズを伝え、細部まですり合わせをしている。今年度は体操教室を実施する予定だ。

岡田会長 第1回の委員会なので、いろいろな意見をいただいて課題を共有し、今後検討していきたい。皆さんの意見でこの会議は進んでいきます。他にご意見はありませんか。

佐野副会長 各公民館の行事予定を、各地域教育協議会・学校にも届けようと考えています。

岡田会長 P26にCN研修実施計画があるが、その最終、2月16日が「交流の集い」になります。みなさんには関わっていただきたい。本委員会の第2回は11月ごろと聞いています。次回は、課題についてのご意見をいただくだけではなく、提案できるものを準備したい。事務局から協議会や連絡体制等うまくいっている事例を紹介してほしい。5つの課題に関連して、副会長とも相談しながら提案し、それについてのご意見をいただけたらと考えている。みなさんも、会議終了後も含めて、アイデアを事務局に寄せていただきたい。

藤田委員 教育長以下おそろいなので、大津市のいじめの問題がクローズアップされ、桜井市の方でも問題が起きている。奈良市の方では大丈夫か。

岡田会長 地域・学校・家庭の連携をテーマとする本委員会の検討事項ではないので、おいておきます。年3回しかない委員会ですので有効に進めていきたい。

7 その他

事務局 次回は11月ごろを予定しています。また、案内します。

○ 閉会

- ※ 資料
- ① 平成24年度第1回奈良市の地域教育を考える委員会開催要項
 - ② 平成24年度奈良市地域教育推進事業
 - ③ 平成24年度第1回奈良市の地域教育を考える委員会プレゼン資料
 - ④ 平成23年度奈良市地域教育推進事業に関するアンケート調査（報告書）
 - ⑤ 平成24年度地域で決める学校予算事業 事業内容一覧
 - ⑥ 平成23年度地域で決める学校予算事業 概要版